



稲穂ニュース



1. 乾燥を上手に仕上げるために…

近年全国的に猛暑・集中豪雨等の異常気象が多発しております。

気象条件によっては「胴割れ米」の発生、低温・高温障害による「未熟米多発」「シラタ」も予想されます。「雨で濡れている粳」「水分バラつきの多い粳」は通風乾燥を行い「胴割れ米」「乾燥ムラ」を出さないようにして下さい。

2. シーズン当初の乾燥方法 ワンポイントアドバイス

①停止水分値を高めに設定

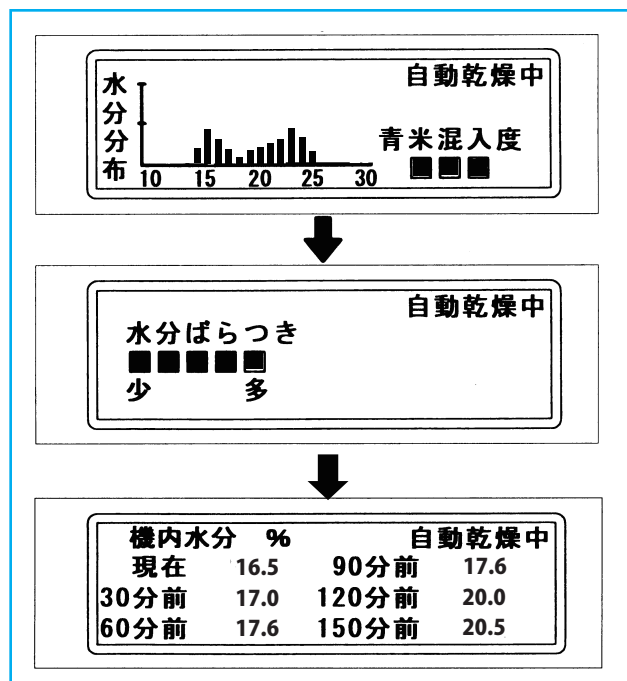
シーズン初めの乾燥1～2回程度は、停止水分値を1～2%高めに設定して様子を見て下さい。
これにより、その年の粳水分などの状況を確認、把握することが出来ます。

②ゆっくり乾燥する

乾燥中の水分分布（グラフ）・青米混入度・水分のバラつきが多い場合は、乾燥速度を「おそい」もしくは乾燥温度を標準より5℃程度低く乾燥して下さい。

- ・水分分布のグラフが2山になっている場合
- ・青米混入度が全部点灯している（多い）場合
- ・水分のバラつきが全部点灯している場合
- ・現在と前5回の水分値表示を確認し、30分ごとの水分差が1～1.5%以上ある場合

*右図参照

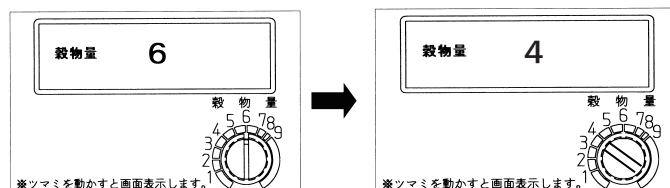


収穫時「胴割米」が発生している場合、乾燥速度を「ややおそい」に設定しても、症状が改善されない場合は「おそい」に設定の上、乾燥して下さい。

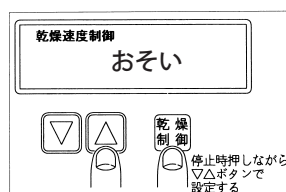


運転方法

- ①「穀物量ツマミ」を2目盛り（約5℃）程度下げて乾燥するもしくは、「二段乾燥」で乾燥時間をかけて乾燥します。これにより、水分ムラが少なくなり、自動水分計の精度も向上します。



- ②乾燥速度を「ややおそい」もしくは「おそい」にして乾燥して下さい。



乾燥機による胴割米の発生は通常ありませんが、胴割れを促進させることはあります。胴割米の可能性のある粳は乾燥前に粳殻をむき、玄米の状況を確認して、乾燥して下さい。

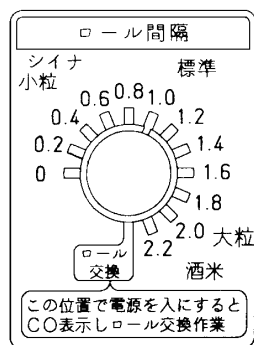
3. もみすり作業における注意点

低温や高温などの障害を受けた粳は、通常よりも胴割れしやすくなっています。（胴割米・シラタ等）
 このような場合、脱ぶ率を上げ過ぎないように注意して下さい。脱ぶ率を上げ過ぎますと、「碎米」等を引き起こしてしまいます。また、粳すり機の脱ぶ率調整は、ゴムロール間隔の開閉・ジェットファンの回転速度の変更で行います。以下を参考に、もみすり作業を行って下さい。

・ゴムロール式粳すり機の場合

通常の間隔より「0.2」以上広くし、もみすり作業をして下さい。

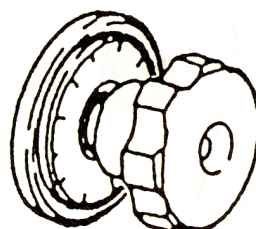
オートロール式



ロール間隔ダイヤルで任意の間隔に設定します。

例) 通常間隔 0.8 でもみすり作業されている場合 1.0 以上の間隔に合わせて下さい。

手動式



ロール間隔ハンドルで任意の間隔に設定します。

例) 通常の間隔よりも 1 メモリ以上広めに設定して下さい。

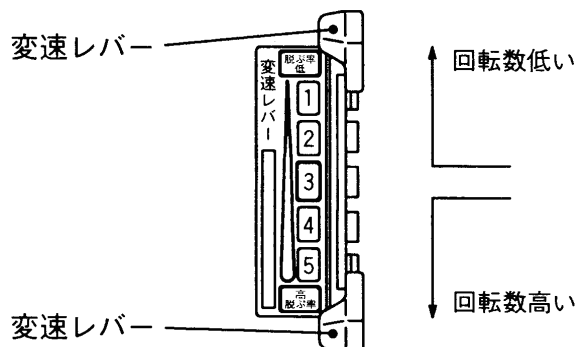
・ジェット式粳すり機の場合

脱ぶファンの変速レバーを「回転数低い」の方向へ動かし、もみすり作業をして下さい。

(MR405J・505J は 9 段変速)



変速レバー位置「1」「2」「4」「5」



上記とあわせて、「シイナ排出」で作業されることをお勧めします。



4. 胴割れ粒の判定方法

軽胴割れ

内部または表面にわずかな亀裂がある（被害粒にならない）



重胴割れ

縦横に複数本の亀裂がある。



背部から腹部の側面まで亀裂がある



横幅に対し 2/3 以上の長さの亀裂が 2 本ある

